

建築物の言語描写における<見立て>の多態性

学籍番号 23413511 氏名 稲垣 圭亮

指導教員 北川 啓介 准教授

はじめに 建築設計において、設計者は、建築空間に操作を加え、目の前にはない事象に関連づけることによって事象のもつ性質を建築空間に与えている。そこで、本研究では、設計者の言語描写における見立ての多胎異性を明らかにすることを目的とする。

研究対象 本研究では、建築専門誌『新建築』を研究資料とし、建築計画に影響を与えた見立てについて記述された 418 事例を研究対象とする。

研究方法 設計者が加えた建築的操作によって建築空間に効果をもたらすことを<見立て>と定義し、<見立て>について記述された研究対象から、設計者が五感で認識した対象を実象、設計者が想像した物を虚象、設計者が加えた建築的操作を操作手法、見立てによって表出する現象や効果である効果を抽出する。まず、効果の意味内容をもとに空間効果を導出し、虚象との組合せから設計者が解釈した<見立て>の特性を導出し、実象と操作手法の組合せから、設計者が建築空間に加えた設計手法の特性を導出する。そして、これらの特性の組合せから建築物の設計における<見立て>の多態性を考察する。

見立てがもたらす空間効果 設計者は、建築空間にさまざまな価値を与える。そこで、効果の意味内容をもとに整理した結果、25 種の空間効果を導出した(表 1)。

虚象と空間効果からみる<見立て>の特性 設計者は見立てによって設計を行う際、虚象の性質を独自に解釈し、虚象に内在する性質に価値を見出しているといえる。そこで、虚象と空間効果の組合せから設計者が独自に解釈した<見立て>の特性を整理した結果、27 種の特性が得られた。これらの意味内容を整理した結果、構成的側面、機能的側面、感性的側面の 3 種の枠組みを捉えた(表 2)。感性的側面は、人間の感性に作用し、固有の気配を演出する<見立て>として虚象自体が作り出す感覚的な性質を捉えたものである。機能的側面は、事象のもつ機能を

表 1 <見立て>がもたらす空間効果

| | | |
|------------|----------|-----------|
| 「景観の創出」 | 「空間の拡大」 | 「眺望の獲得」 |
| 「象徴性の付与」 | 「内部の展観」 | 「形態の強調」 |
| 「周辺環境との融合」 | 「領域の無効化」 | 「気象の獲得」 |
| 「視界の拡張」 | 「活動の誘発」 | 「機能の拡張」 |
| 「明暗の操作」 | 「環境の調整」 | 「安らかさの獲得」 |
| 「場所性の創出」 | 「様相の形成」 | 「理念の確立」 |
| 「歴史の想起」 | 「存在感の強調」 | 「印象の消去」 |
| 「移ろいの感得」 | 「自然界の投影」 | 「幻想的な演出」 |
| 「遠近感の消去」 | | |

表 2 <見立て>の特性

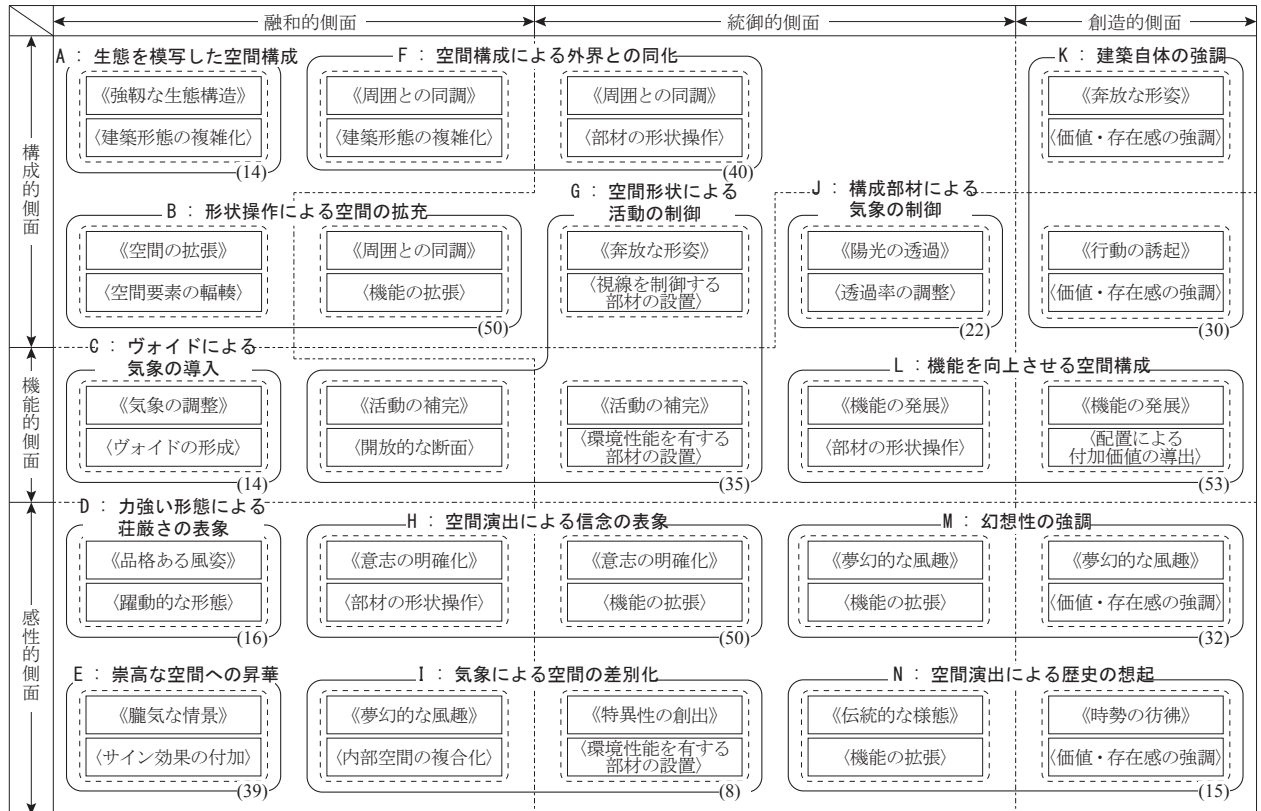
| | |
|-------|------------|
| 構成的側面 | 《空間の拡張》 |
| | 《強靱な生態構造》 |
| | 《奔放な形姿》 |
| | 《均一な様相》 |
| | 《領域の混成》 |
| | 《周囲との同調》 |
| 機能的側面 | 《身体尺度との適合》 |
| | 《行動の誘起》 |
| | 《機能の発展》 |
| | 《気象の調整》 |
| | 《活動の補完》 |
| | 《錯覚による拡張》 |
| 感性的側面 | 《内部環境の維持》 |
| | 《陽光の透過》 |
| | 《神秘的な生命》 |
| | 《意志の明確化》 |
| | 《臙気な情景》 |
| | 《品格ある風姿》 |
| | 《伝統的な様態》 |
| | 《特異性の創出》 |
| | 《時勢の彷彿》 |
| | 《夢幻的な風趣》 |
| | 《天への信奉》 |
| 創造的側面 | 《固有性の創出》 |
| | 《陽気による安らぎ》 |
| | 《自然の雄大さ》 |
| | 《風土の知覚》 |

表 3 設計手法の特性

| | |
|-------|-----------------|
| 融和的側面 | 〈建築形態の複雑化〉 |
| | 〈内部空間の複合〉 |
| | 〈開放的な断面〉 |
| | 〈外部空間の接続〉 |
| | 〈空間要素の輻輳〉 |
| | 〈ヴォイドの形成〉 |
| 統御的側面 | 〈内外領域の融和〉 |
| | 〈中間領域の形成〉 |
| | 〈植栽の設置〉 |
| | 〈機能の拡張〉 |
| | 〈部材の形状操作〉 |
| | 〈開口部の形状操作〉 |
| 創造的側面 | 〈穿孔による外部環境の導入〉 |
| | 〈透過率の調整〉 |
| | 〈動線の誘引〉 |
| | 〈環境性能を有する部材の設置〉 |
| | 〈視線を制御する部材の設置〉 |
| | 〈独立部材の設置〉 |
| | 〈象徴性の創出〉 |
| | 〈彩色による隠喩表現〉 |
| | 〈サイン効果の付加〉 |
| | 〈価値・存在感の強調〉 |
| | 〈配置による付加価値の創出〉 |

建築物に転用することで活動に影響を与える<見立て>として、虚象の機能性を捉えたものである。構成的側面は、建築物の構成に作用する<見立て>として、虚象の形態を捉えたものである。

実象と操作手法からみる設計手法の特性 設計者によって解釈がなされた虚象は、建築的操作により実空間に表現され、建築空間にさまざまな効果を与え



※ 図中「」内は《<見立て>の特性》と《設計手法の特性》の組合せ例、()は事例数を示す。

図 1 建築空間における<見立て>の多態性

る。そこで、実象と設計手法の組合せから設計者が加えた建築的操作を整理した結果、24 種の特性が得られた。これらの意味内容を整理した結果、融和的側面、統御的側面、創造的側面の 3 種の枠組みを捉えた (表 2)。融和的側面は、建築内外の距離を近づける操作である。統御的側面は、必要な要素を限定して空間に取り入れる操作である。創造的側面は、空間のもつ印象を形成する操作である。

建築空間における<見立て>の多態性 <見立て>の特性と設計手法の特性の組合せを考察した結果、建築物の言語描写における<見立て>の多態性として、A～N の 14 種の類型を得た (図 1)。A, B, C, F, G, J, L は、空間構成によって領域を伸展する<見立て>の多態性として整理できる。A は、動物の生態構造を捉えて建築技術に応用することで、機能や構造の効率化をはかった空間をつくる。C は、構成部材を独特の余白をもつ樹木や庭に見立て、空間の余白を通して室内に陽光や通風を導入し、快適な室内環境をつくりだす。D, E, H, I, K, M, N は、空間演出によって虚象を形象化する<見立て>の多態性として整理できる。D は、建築の形状を空想の生物や場所に見立てて具現化することで、力強く威厳ある

る空間を演出する。E は、構成部材を幻想や装飾品に見立て、空間内の構成部材に象徴性をもたせることで、建築物内部を神秘的で崇高な空間に昇華させる。

結論 建築物の言語描写における<見立て>の多態性として、空間構成による見立てと、空間演出による見立ての、2 つの側面を捉えることができた。空間構成による見立てでは、林立した樹木の様相や無形物である概念、動物の生態を建築設計の操作によって具現化するなど、設計者が着目した事象の構成要素を建築に転用する際に用いる、見立てにおける手法の多態性があることがわかった。空間演出による見立てでは、見立てによって具現化された空間にもたらされた効果に着目し、同じ事象に着目して同じ建築的操作を用いた場合でも、空間構成によって付加価値を与え、行動に作用する効果と心情に作用する効果があり、見立てにおける解釈の多態性があることがわかった。以上より、建築物の設計において見立ては、形状や様相を事象に見立てて具現化することで、機能や空間の拡張、幻想的な空間演出、設計者自身の思想の具現化など、建築で表現できる幅を拡張することを可能としていた。